

平成18年飯田下伊那地方におけるスギ・ヒノキ花粉飛散状況について

小林貞子、藤本和子、込山茂久、佐々木隆一郎（飯田保健所）、宮島勲（諏訪保健所）

要旨：飯田保健所では、花粉症予防対策事業の一環として、平成5年からスギ・ヒノキ花粉飛散量調査を、平成7年からはアレルギー性鼻炎患者数調査を実施している。平成18年の調査では、飯田下伊那地方のスギとヒノキの花粉飛散量は、いずれも平均より少ない状況であった。また、スギ花粉は、飛散開始日が調査開始以来5番目に早く、飛散のピークも2月下旬にみられ、平均より早い飛散開始であった。アレルギー性鼻炎患者数調査では、初診患者数は少なかったが、再診患者数については花粉飛散量の非常に多かった昨年に次ぐ多い状況であった。

キーワード：スギ・ヒノキ花粉、花粉飛散量、飛散開始日、アレルギー性鼻炎患者数、

A 目的

スギ・ヒノキ花粉症対策には、発症前の予防対策が重要な役割を担っている。飯田保健所では、平成5年からスギ・ヒノキ花粉症予防対策の基礎的資料とするために、花粉飛散量調査を実施している。平成7年からはアレルギー性鼻炎患者数と花粉飛散量の関連性について検討を行うため、飯田市立病院の協力を得て、アレルギー性鼻炎患者数について調査を開始した。

今回は、これまでの調査結果を基に、平成18年の飯田下伊那地方におけるスギ・ヒノキ花粉飛散状況等について報告する。

花粉飛散量は、617.3個/c㎡で、非常に多かった前年の約1/8、平均の約1/4であり、平成5年からは、10番目に多い状況であった。ヒノキ花粉については、616.9個/c㎡で前年の約1/5、平均の約1/2で、平成5年からでは8番目の状況であった。スギ・ヒノキの合計飛散量では1,234.2個/c㎡で、前年の約1/6、平均の約1/2であり、平成5年からでは、10番目に多い状況であった。

平成18年のスギ花粉とヒノキ花粉の飛散量比は、1:1で、平均の2:1に比べヒノキ花粉が多く飛散した。

B 調査方法

① 花粉飛散量調査について

捕集地点：飯田合同庁舎屋上（地上23.5m）

捕集器：ダーラム型

期間：1月から5月（日別飛散数について）

対象花粉：スギ、ヒノキ

花粉飛散量：シーズン中の総飛散数

観測：花粉情報標準化委員会の方法による¹⁾

② アレルギー性鼻炎患者数

期間：2月から4月（日別患者数について）

協力病院：飯田市立病院

対象：初診および再診アレルギー性鼻炎患者数

C 結果

① 花粉飛散量調査について

年別飛散開始日および花粉飛散量について表1に、花粉飛散量の年別推移について図1に示す。

平成18年の飛散開始日は、2月18日で、調査開始以来5番目に早く、平成5年から17年までの平均より1週間早かった。平成18年のスギ花

表1 年別花粉飛散開始日および花粉別飛散量

| 平成 | 飛散開始日 | 花粉飛散量（個/c㎡） | | |
|-----|-------|-------------|---------|----------|
| | | スギ | ヒノキ | 計 |
| 5年 | 2/16 | 1,735.7 | 1,709.4 | 3,445.1 |
| 6年 | 3/9 | 248.2 | 19.8 | 268.0 |
| 7年 | 2/24 | 8,624.4 | 3,205.3 | 11,829.7 |
| 8年 | 3/8 | 340.4 | 234.8 | 575.2 |
| 9年 | 2/26 | 1,331.9 | 818.1 | 2,150.0 |
| 10年 | 2/19 | 211.3 | 125.8 | 337.1 |
| 11年 | 2/26 | 813.3 | 719.0 | 1,532.3 |
| 12年 | 2/14 | 831.0 | 920.0 | 1,751.0 |
| 13年 | 2/22 | 4,493.0 | 2,694.0 | 7,187.0 |
| 14年 | 2/15 | 1,840.9 | 209.6 | 2,050.5 |
| 15年 | 2/17 | 2,742.2 | 446.2 | 3,188.4 |
| 16年 | 3/10 | 221.5 | 95.5 | 317.0 |
| 17年 | 3/4 | 4,989.1 | 2,794.1 | 7,783.2 |
| *平均 | 2/24 | 2,186.4 | 1,076.3 | 3,262.7 |
| 18年 | 2/18 | 617.3 | 616.9 | 1,234.2 |

備考：* 調査開始～平成17年までの平均

図1 花粉飛散量の年別推移（平成5～18年）

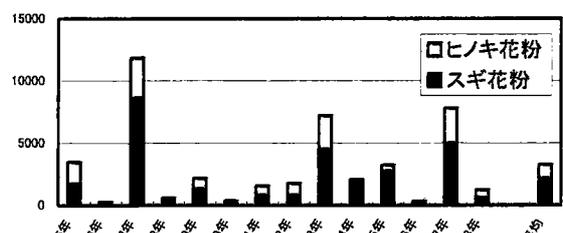
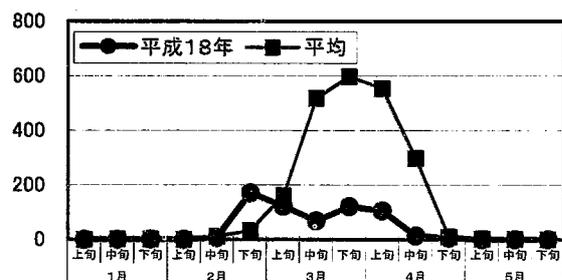
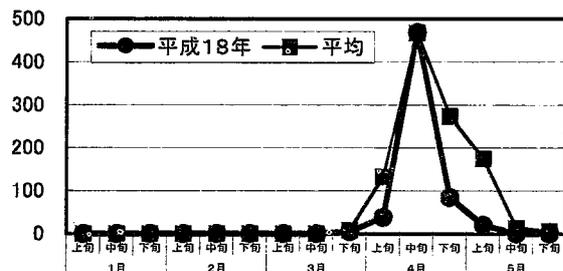


図2に旬別花粉飛散数の推移を示す。平成18年のスギ花粉の飛散は、2月下旬と3月下旬にピークがあった。2月下旬のピークは平均に比べ、早い状況であった。ヒノキ花粉のピークは、平均と同様に4月中旬であった。

図2 旬別花粉飛散数の推移
スギ



ヒノキ



② アレルギー性鼻炎患者数について
年別のアレルギー性鼻炎患者数を表3に示す。

表3 年別アレルギー性鼻炎患者数

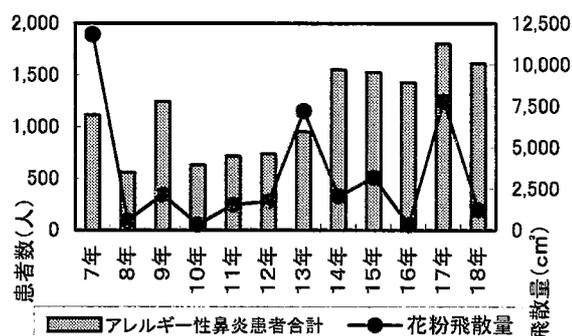
| 平成 | 初診 | 再診 | 合計 |
|-----|-------|-------|---------|
| 7年 | 375 | 737 | 1,112 |
| 8年 | 161 | 397 | 558 |
| 9年 | 295 | 947 | 1,242 |
| 10年 | 103 | 526 | 629 |
| 11年 | 141 | 573 | 714 |
| 12年 | 94 | 642 | 736 |
| 13年 | 219 | 732 | 951 |
| 14年 | 111 | 1,438 | 1,549 |
| 15年 | 45 | 1,481 | 1,526 |
| 16年 | 34 | 1,391 | 1,425 |
| 17年 | 88 | 1,714 | 1,802 |
| 平均 | 151.5 | 961.6 | 1,113.1 |
| 18年 | 39 | 1,570 | 1,609 |

平成18年の初診患者数は39人で、前年の約0.4倍、平均の約0.3倍で少ない状況であった。

再診患者数については1,570人で、花粉飛散量の非常に多かった前年の約0.9倍、平均の約1.6倍で、多い状況であった。

花粉飛散量とアレルギー性鼻炎患者合計の年別推移を図3に示す。表3及び図3からアレルギー性鼻炎患者の合計と再診患者数については、平成14年以降、多い状況で推移している傾向が窺えた。

図3 花粉飛散量と
アレルギー性鼻炎患者合計の年別推移



D 考察

平成18年の飯田下伊那地方の花粉飛散量は、スギ花粉、ヒノキ花粉ともに、これまでの調査の平均より少ない状況であった。また、スギ花粉については、飛散開始日が2月18日で、飛散のピークも2月下旬にみられ、平均より早い飛散状況であった。

アレルギー性鼻炎患者数については、初診患者数は少なかったものの、再診患者数は多い状況であった。また、近年、アレルギー性鼻炎患者のうち再診患者数が花粉飛散量の少ない年も多い状況で推移している傾向がみられた。

これらのことから、花粉症の発症予防や症状軽減のため、医療機関を受診する患者が増加していることが推測される。

花粉症で医療機関を受診する患者にとって、飛散開始日や花粉飛散量などの情報は、治療開始や投薬の継続などの判断に有用と思われる。

今後も、この事業における調査を継続し、地域住民の花粉症対策に役立つ情報の提供に努めていきたい。

1) 空中花粉測定および花粉情報標準化委員会(平成6年)合意事項